

事業計画書

事業名	大岡地区公共交通推進住民協議会
実施場所	沼津市大岡地内
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載して下さい。 2019年 5月 7日 ~ 2020年 3月 20日

◎事業概要

※事業の概要を 100～200 字で簡潔に記載して下さい（事業の紹介などで使用します）。

人口が集積しているながら公共交通の空白地域となっている大岡地区において、住民協議会、勉強会、視察研修会等を通じて、住民が主体となった運行サービスを検討し、生活の足の確保を図る。

◎目的

※何を目的として実施する事業であるか（事業を行うきっかけ（地域の問題点や課題、社会背景など）や、課題解決のためにどんなことが必要と考えるか）を記載して下さい。

大岡地区は、旧国道一号線と国道 414 号線に挟まれたエリアが公共交通の空白地域となっている。平成 29 年度には伊豆箱根バスと市が 3 か月間の循環バス運行社会実験を行い、本格運行には至らなかったものの、アンケート結果などから特に高齢者の日常生活に移動手段が求められていることが明らかになった。高齢化が進展する中で、他地域に先駆けて地域住民の移動手段を住民自らが検討し、試験運行、本格運行の実現を目指す。



◎実施内容

日 程	実施項目・作業項目
<p>平成 29 年度 平成 30 年度</p>	<p>※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。</p> <p>循環バス社会実験（10月～12月） 大岡地区公共交通推進住民協議会を結成</p> <p>5回の検討会、まちあるき等を実施してきたが、メンバー各々に公共交通に対する思いがあり、意見の集約が難しい状況が見られた。</p> <p>また、公共交通事業者の参入を基調として検討を重ねたが、運営面、資金面の課題が大きいことが表面化し、自家用有償運送や共助による移動手段の確保を検討対象に加える必要も感じている。</p> <p>今回の取り組みにおいては、全体会（勉強会・検討会）とコアメンバー会議に分け、コアメンバー会議で検討した複数の素案を全体会に諮ることとし、早期に運行サービス案をまとめて試験運行、本格運行につなげたい。</p>
<p>平成 31 年度 5 月 6 月 7 月～10 月 11 月 12～1 月 2 月</p>	<p>住民勉強会（講師：早稲田大学 井原雄人准教授） テーマ「新しい公共交通の仕組みと地域コミュニティ」</p> <p>6 月 先進地視察（行先：静岡市、掛川市） 住民アンケートの実施</p> <p>7 月～10 月 コアメンバー会議を数回実施し、運行方法、路線、資金等の素案を複数作成する。うち2回程度井原准教授を招聘。 アンケート回収・集計</p> <p>11 月 アンケート結果広報 住民協議会（オブザーバー：井原准教授） 「大岡地区住民の移動手段（素案）の検討」</p> <p>12～1 月 コアメンバー会議</p> <p>2 月 住民協議会（オブザーバー：井原准教授） 「試験運行、本格運行に向けて」</p>

◎事業効果

<p>※事業の実施により、期待される効果を記載して下さい。</p>			
<p>検討段階においては、検討状況の広報やアンケート等を通じて、地域課題に対する住民意識の向上を図る。</p> <p>今後、試験運行、本格運行が実現すれば、地域全体で高齢者の生活を支える体制が構築でき、また、他地域におけるモデルケースとなることも期待される。</p>			
<p>成果指標</p>	<p>※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。</p> <p>地域住民の移動手段確保に関する関心度：50%超</p>	<p>指標の検証方法</p>	<p>※左記指標の検証方法を記載して下さい。</p> <p>住民アンケート回収率：50%超</p>

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

<p>公益性 ・ 必要性</p>	<p>※公益性：地域のまちづくりの推進に如何に寄与できるのか、不特定多数の市民の利益にどうつながるのか等について記載して下さい。 ※必要性：事業を実施する意義や、本ファンドによる助成が有益で質の高い事業展開につながる理由を記載して下さい。 地域の課題に対して、住民自らが解決に当たる機運が醸成される。 公共交通に対する意識・関心が高まり、公共交通機関の利用促進につながる。 この取り組みを通じて大岡地区住民の新しい移動手段を生み出せれば、高齢者の外出機会の増大、地域の活力向上につながる。</p>
<p>地域性</p>	<p>※地域の実状と課題をどう捉え、事業を行うことによってどのように課題を解決するのか、また、地域の特性や地域資源をどのように活かしたか、などについて記載して下さい。 長年公共交通空白地域となっている大岡地区においては、自家用車などの移動手段を持たない高齢者を中心に、住民の生活の足の確保が最重要課題の一つである。</p>
<p>先導性</p>	<p>※事業の新規性や独自性など、新たにチャレンジする点、工夫した点などについて記載して下さい。 地域住民の移動手段を検討する場合、行政に路線開設を要望することが多いが、行政に頼らず、地域で課題解決に当たることは珍しい。 本格運行が実現できれば、先駆的な取り組みとして生活の足の確保に悩む地域のモデルケースとなることが期待される。</p>
<p>発展性 ・ 継続性</p>	<p>※発展性：活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。 ※継続性：本ファンドによる助成終了後も継続的・自立的な活動とするために、事業実施体制や活動資金の確保などについて記載して下さい。 本年度中に運行サービスの形態を固め、次年度以降に試験運行、本格運行を目指したい。 また、住民自らが地域課題の解決に当たる取り組みを、交通以外の分野にも波及させていきたい。</p>
<p>実現性 ・ 妥当性</p>	<p>※実現性：事業目的と事業内容は合致しているか、実現のために事業内容、予算の積算、自己資金の準備、スケジュール等について工夫した点を記載して下さい。 ※妥当性：各種法令順守、関係者との調整状況、費用に対する事業効果の妥当性について記載して下さい。 今後の社会実験、本格運行の実現性を高めるため、今回の取り組みが重要になる。各地で住民主体の運行サービス立ち上げに関わっている学識経験者が協力してくれることを心強く思っている。</p>
<p>活動に対する 熱意</p>	<p>※活動の動機、活動に対する意欲・熱意について記載して下さい。 生活の足の確保は長年の課題であり、循環バス運行実験以降、住民の関心は高まっている。</p>

◎次年度以降の活動予定

<p>※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載して下さい（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。</p> <p>検討の結果、どのような運行サービス形態を採用することになるかは現時点では見通せないが、議論が長引くと熱意が低下する恐れがあるので、早期に検討段階を脱し、試験運行、本格運行につなげていきたいと考えている。</p>
